令和４年１２月１９日
こども青少年・教育委員会
こども青少年局

横浜市におけるヤングケアラーに関する実態把握調査結果について

調査の実施概要

調査目的

本市におけるヤングケアラー(※)の生活状況や世話をしていることによる生活への影響、支援ニーズ等を把握し、適切な支援策を検討すること。

(※)法令上の定義はないが、一般に、本来大人が担うと想定されている家事や家族の世話などを日常的に行っている子どものこと。

調査対象

市内の公立学校に通う小学5年生、中学2年生、高校2年生(合計約7万5千人)

調査内容

学校生活等に関すること	出席状況、部活動への参加状況、授業への意欲、悩み　等
家庭や家族に関すること	世話をしている家族の有無・状況・頻度、世話をしていることによる影響、周りの大人にしてもらいたいこと　等
ヤングケアラーについて	ヤングケアラーという言葉の認知度、自分がヤングケアラーにあてはまると思うか　等

調査の実施概要

調査手法

各学校を通じ、生徒本人に調査概要や調査回答フォームの二次元コード等を記載した用紙を配布し、各生徒はWeb上で回答（回答は任意）。

調査期間

令和4年6月17日（金）～7月22日（金）

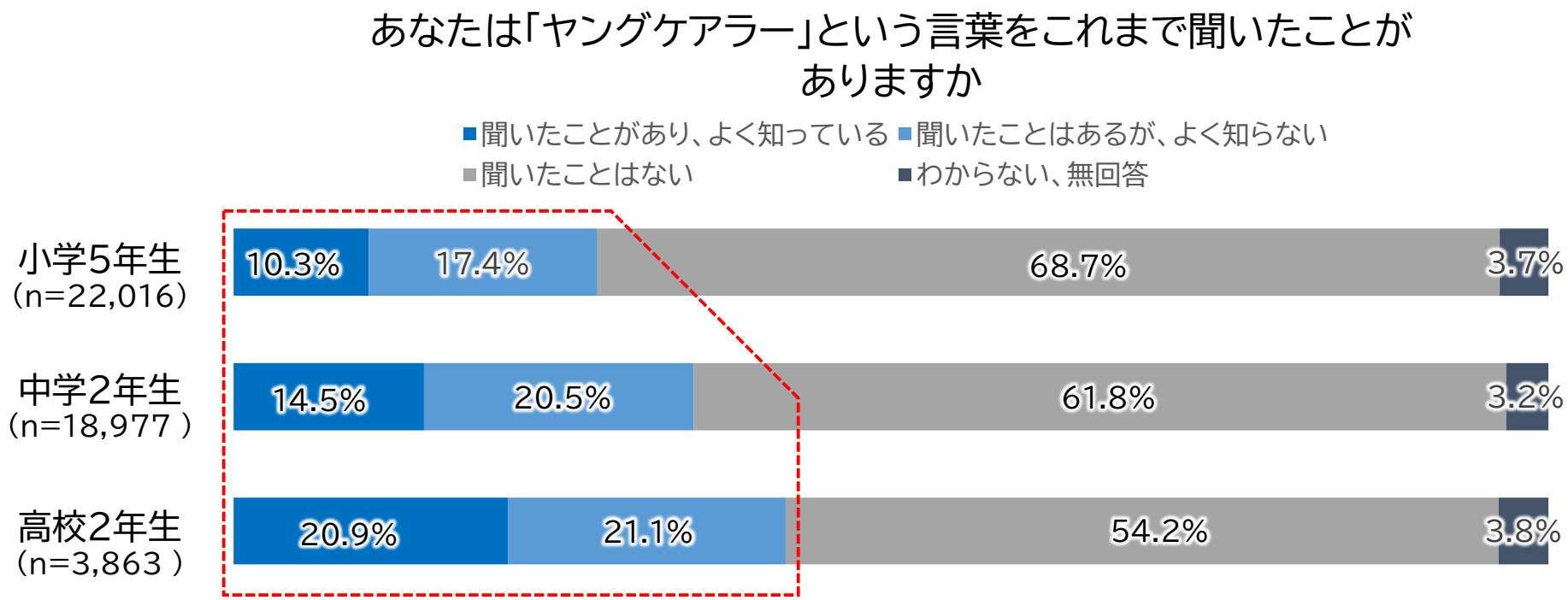
回答者数（率）

全体：　45,490 人（回答率：約60.0%）

小学5年生：　22,485 人（回答率：約75.0%）
中学2年生：　19,133人（回答率：約73.6%）
高校2年生：　　3,872人（回答率：約20.4%）

ヤングケアラーという言葉の認知度

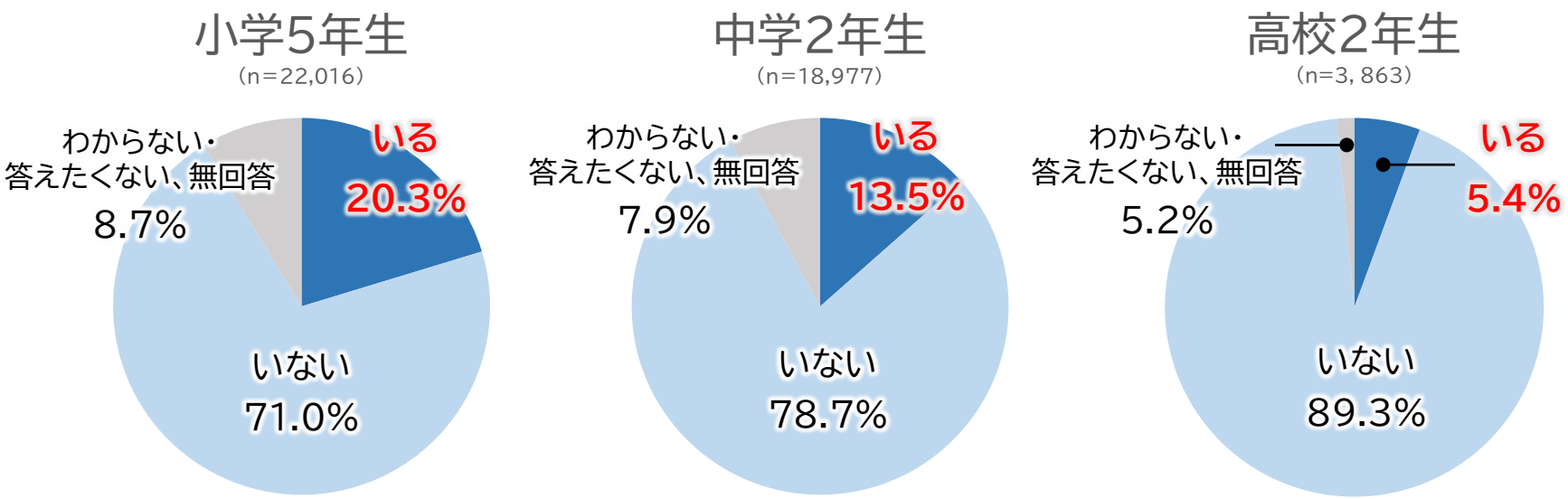
ヤングケアラーという言葉を聞いたことがある子どもは、いずれの学年も約3～4割程度となっている。



世話をしている家族の有無

小学5年生の20.3%(5人に1人)、中学2年生の13.5%(7人に1人)、高校2年生の5.4%(19人に1人)が家族の中に世話をしている人が「いる」と回答している。

家族の中にあなたがお世話をしている人はいますか

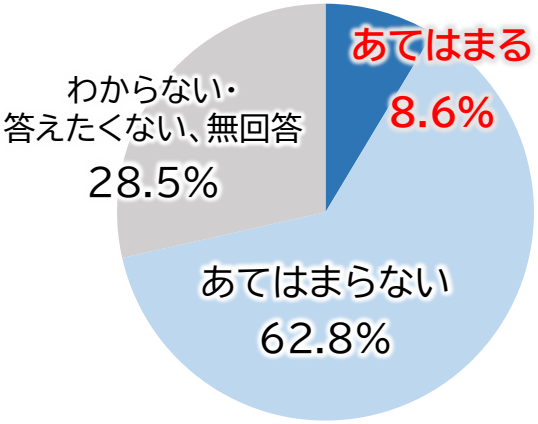


自分がヤングケアラーであると思うか
（対象：家族の世話をしている子ども）

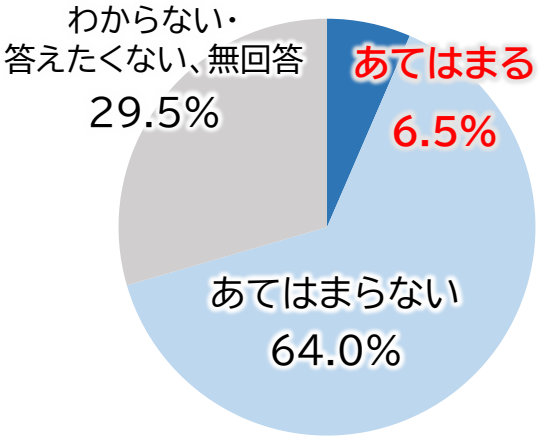
自分がヤングケアラーだと思う子どもの割合は、小学5年生の8.6%（全体の約1.7%）、中学2年生の6.5%（全体の約0.9%）、高校2年生の11.0%（全体の約0.6%）となっている。

あなたは自分が「ヤングケアラー」にあてはまると思いますか

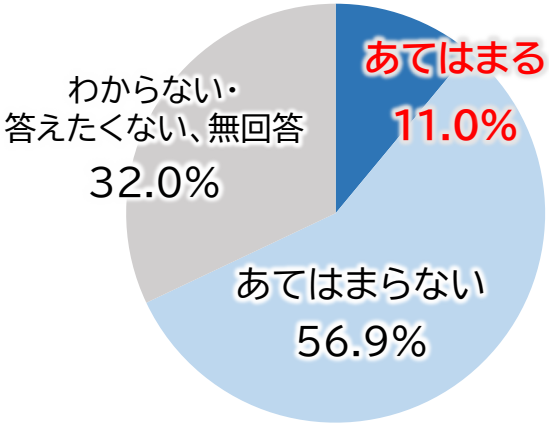
小学5年生
（n=4,463 ）



中学2年生
（n=2,555 ）

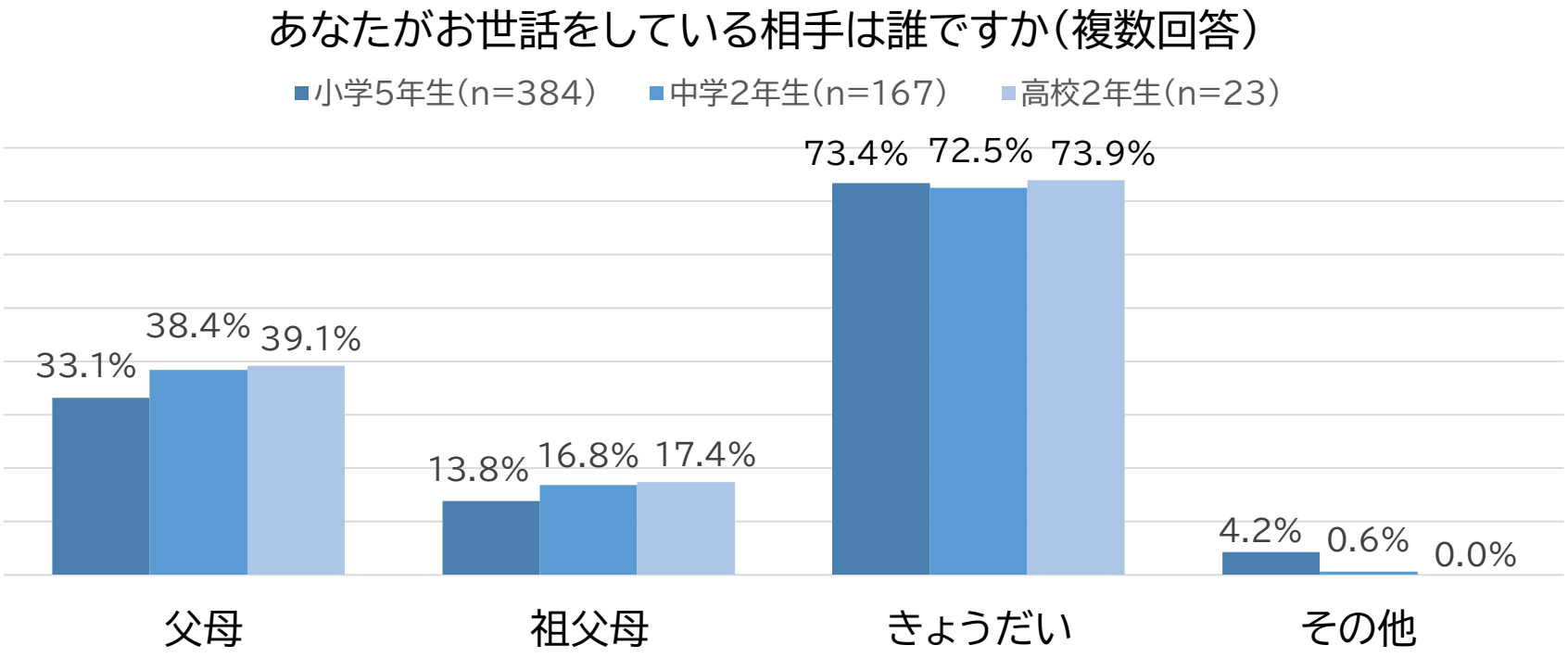


高校2年生
（n=209）



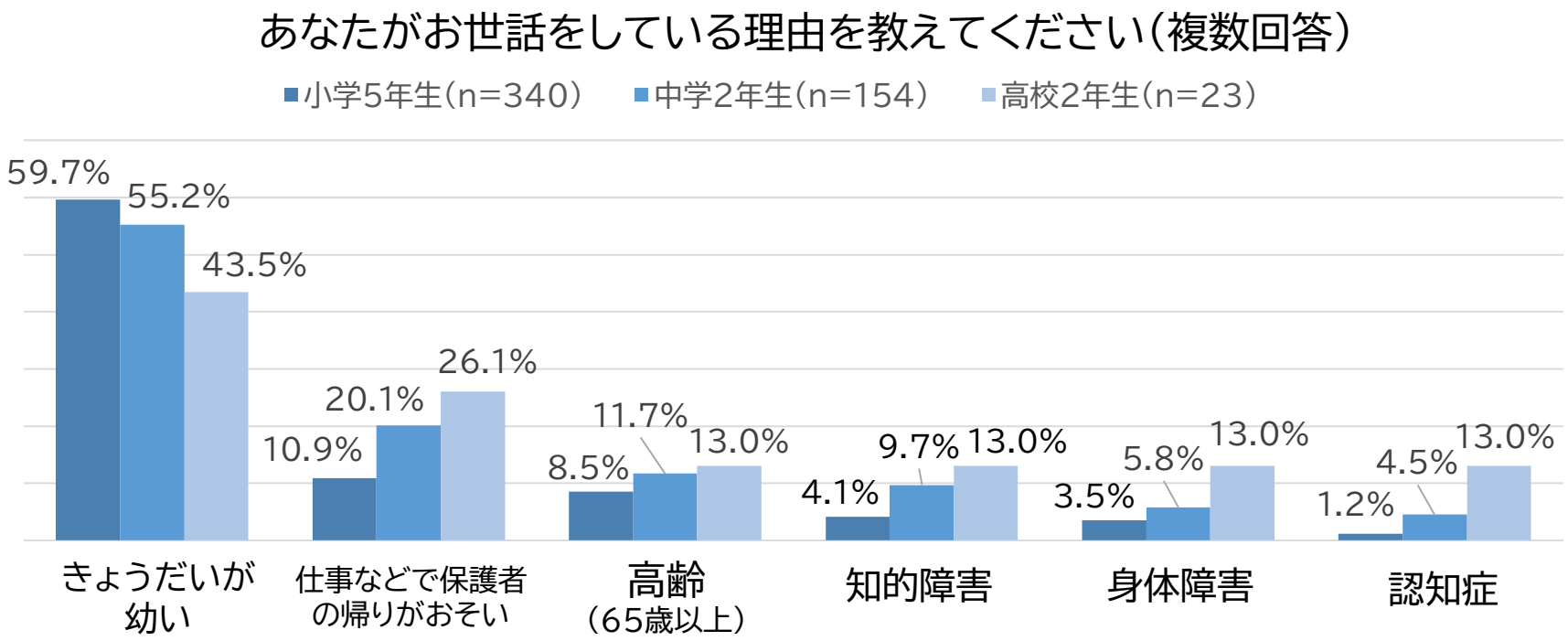
世話をしている相手
（対象：家族の世話をしており、自分をヤングケアラーだと思う子ども）

いずれの学年も「きょうだい」が最も多く、次いで「父母」「祖父母」となっている。



世話をしている理由
（対象：家族の世話をしており、自分をヤングケアラーだと思う子ども）

いずれの学年も「きょうだいが幼い」が最も多く、次いで「仕事などで保護者の帰りが遅い」となっている。高校生は他の学年と比較し、家族の障害や病気などの理由が多くなっている。

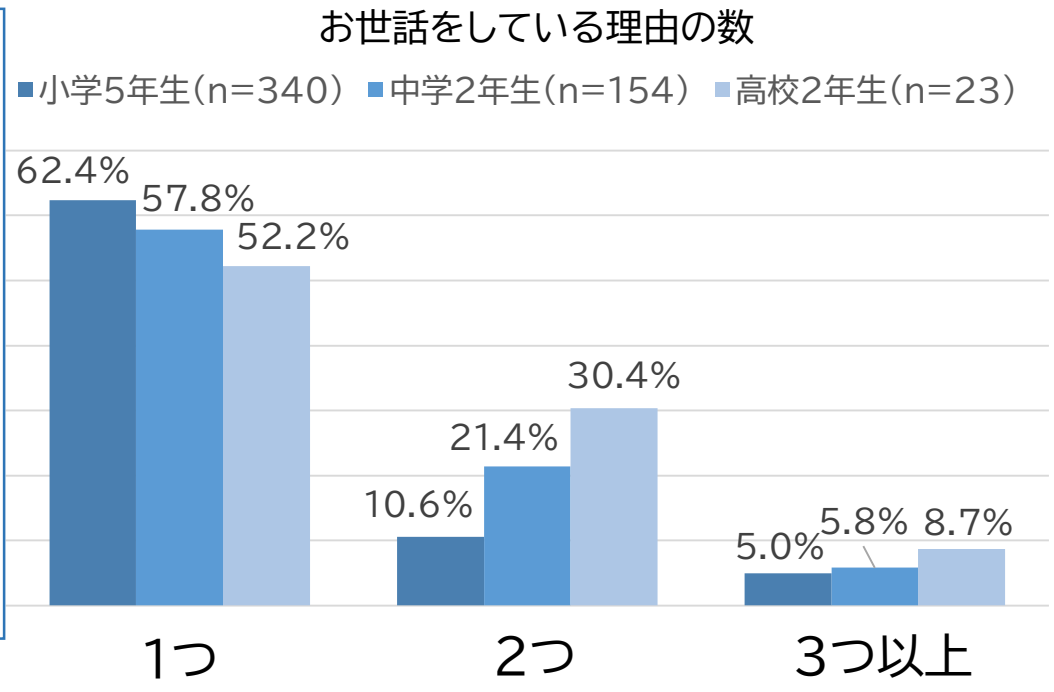


世話をしている理由の数
（対象：家族の世話をしており、自分をヤングケアラーだと思う子ども）

複数の理由で家族の世話をしている子どもも見られる。また、学年が上がるにつれ、その割合が増える傾向にある。

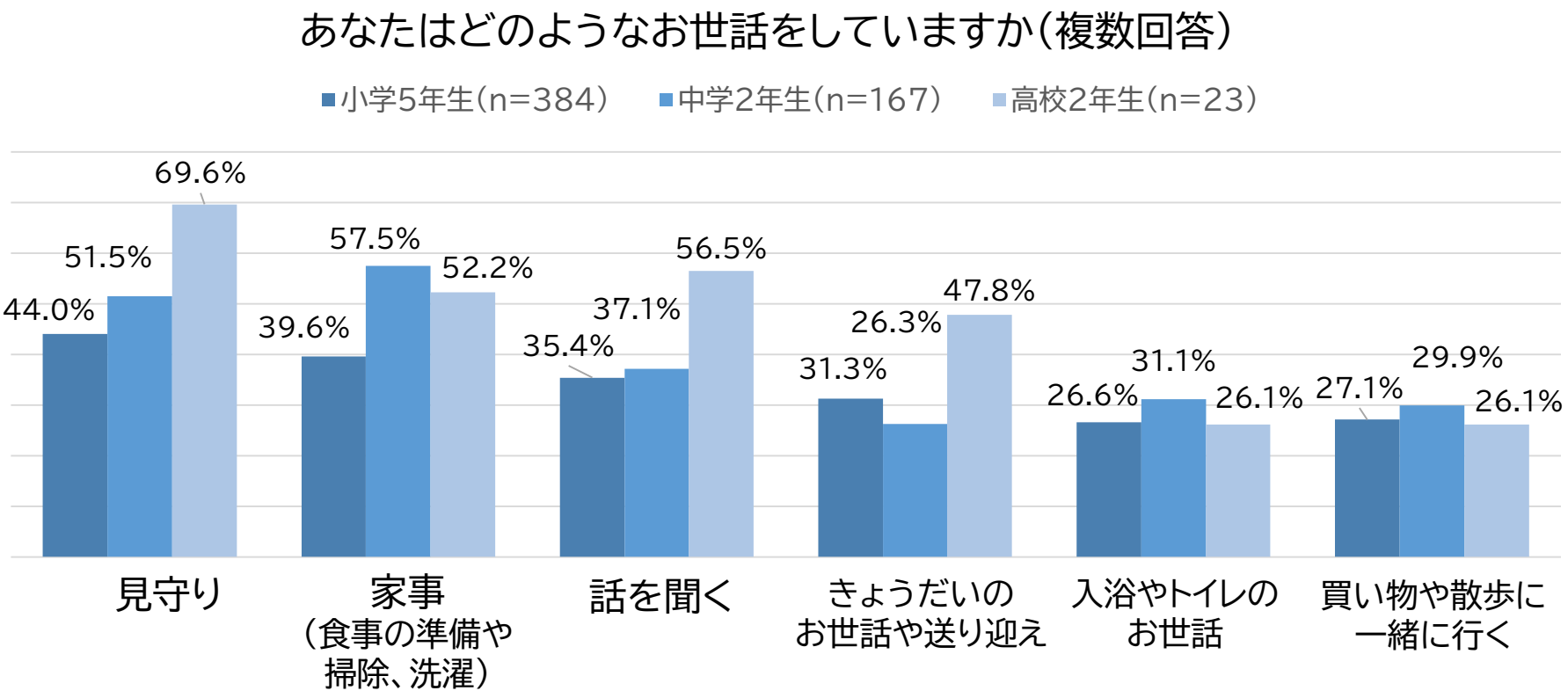
＜お世話をしている理由＞

- ●きょうだいが幼い
- ●仕事などで保護者の帰りが遅い
- ●高齢（65歳以上）
- ●知的障害
- ●身体障害
- ●認知症
- ●こころの病気（うつ病など）
  ※疑いをふくむ
- ●日本語が苦手　　など



世話の内容
（対象：家族の世話をしており、自分をヤングケアラーだと思う子ども）

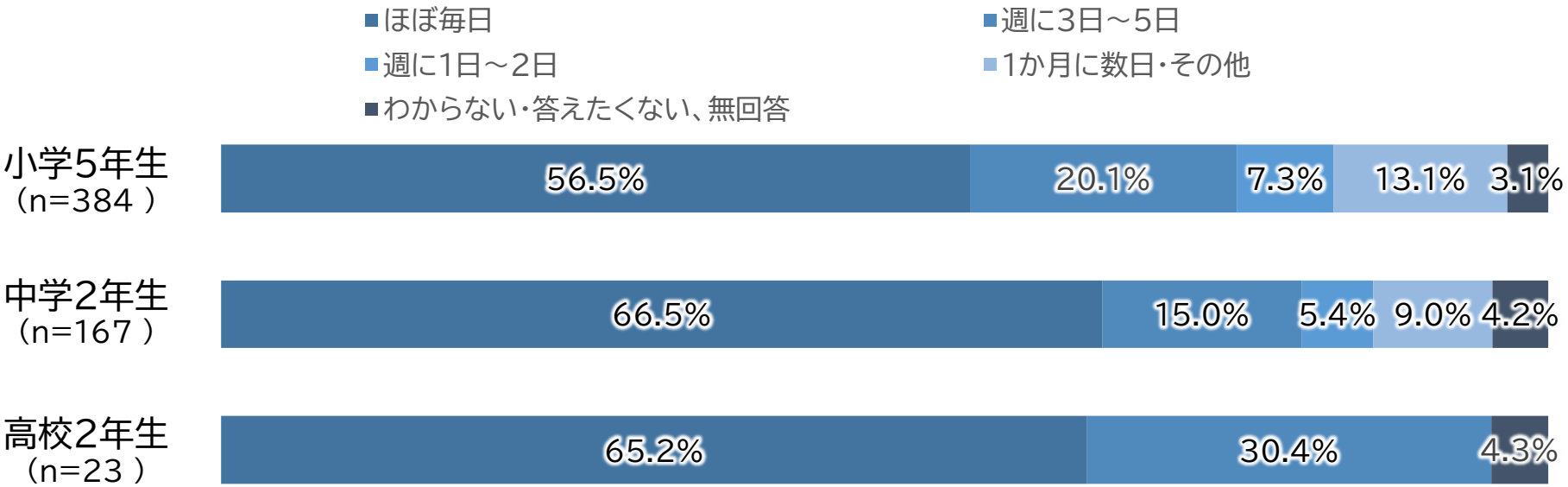
いずれの学年も、「見守り」や「家事」、「話を聞く」など様々であるが、高校生は他の学年と比較し、多くの内容を担っている状況が見られる。



世話の頻度
（対象：家族の世話をしており、自分をヤングケアラーだと思う子ども）

いずれの学年も「ほぼ毎日」が最も多く、高校生は約95%が週に3日以上世話をしている状況が見られる。

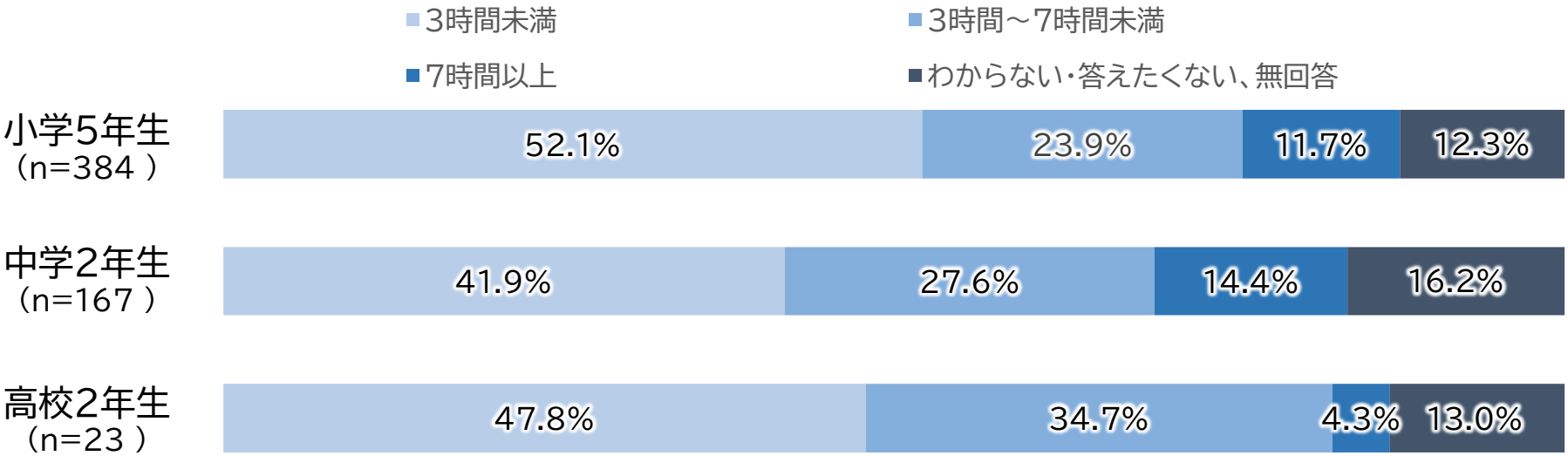
あなたがお世話をしている頻度を教えてください



世話に費やす時間
（対象：家族の世話をしており、自分をヤングケアラーだと思う子ども）

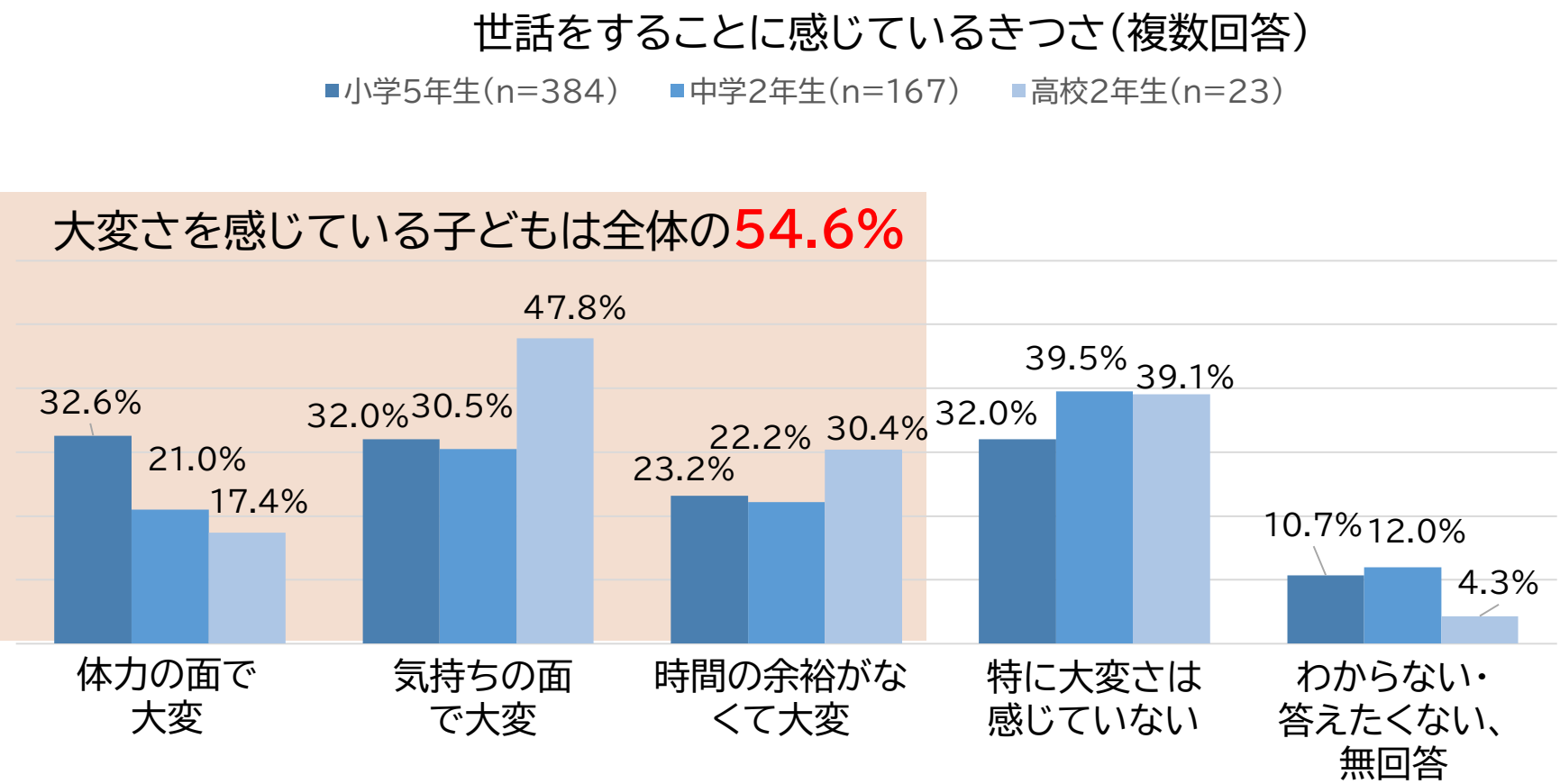
いずれの学年も「3時間未満」が最も多いが、一部の子どもについては「7時間以上」世話をしている状況が見られる。

あなたは1日に何時間くらいお世話をしていますか
（日によって違う場合は、この1か月で一番長かった日の時間を教えてください）



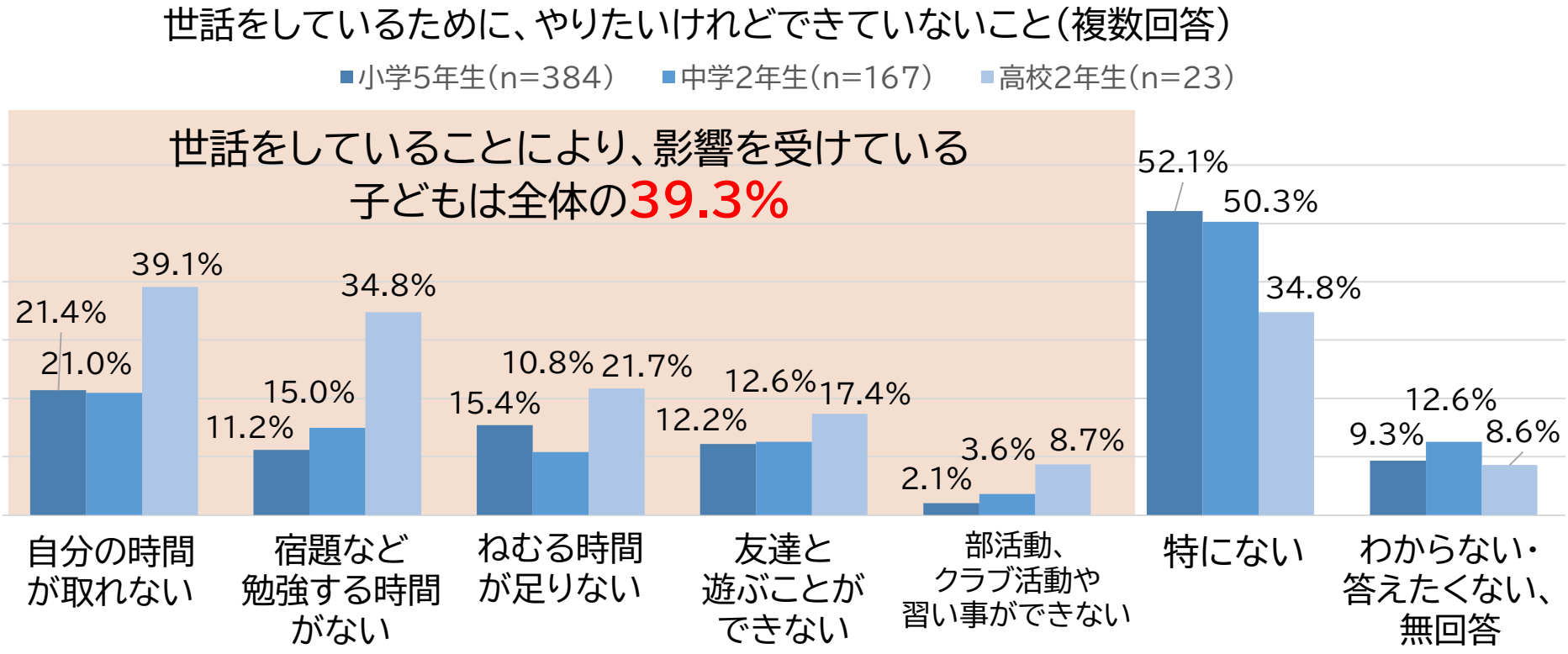
世話をすることに感じているきつさ
（対象：家族の世話をしており、自分をヤングケアラーだと思う子ども）

子どもの過半数が、体力や気持ちの面などで大変さを感じており、特に高校生は気持ちの面で大変さを感じている割合が高い。



世話をしていることによる影響
（対象：家族の世話をしており、自分をヤングケアラーだと思う子ども）

子どもの約4割が、「自分の時間が取れない」「宿題など勉強する時間がない」などの世話による影響を受けている。

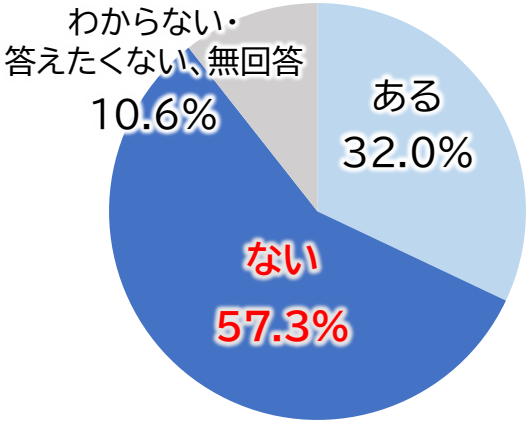


世話をしていることについての相談経験
（対象：家族の世話をしており、自分をヤングケアラーだと思う子ども）

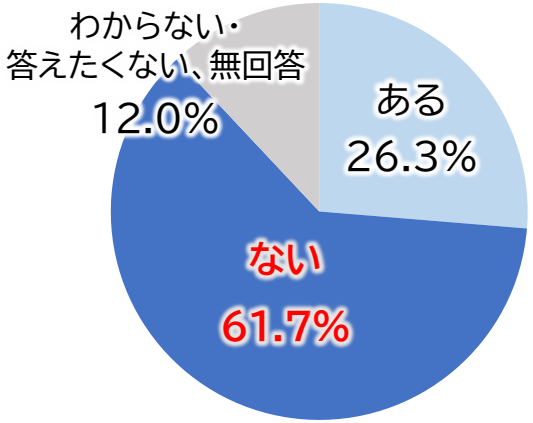
小学生及び中学生の約6割、高校生の約4割が相談したことが「ない」と回答している。

あなたがお世話をしている家族のことや、お世話の悩みについて
誰かに相談したことはありますか

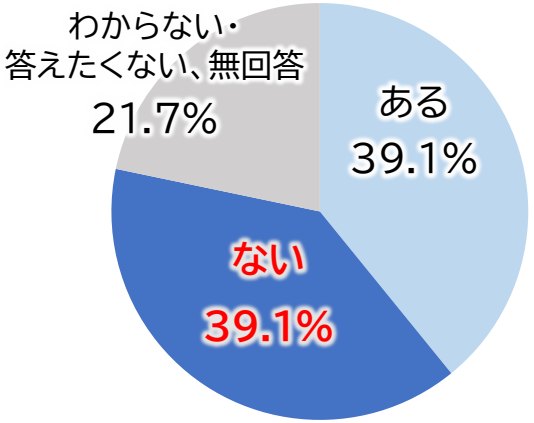
小学5年生
（n=384 ）



中学2年生
（n=167 ）



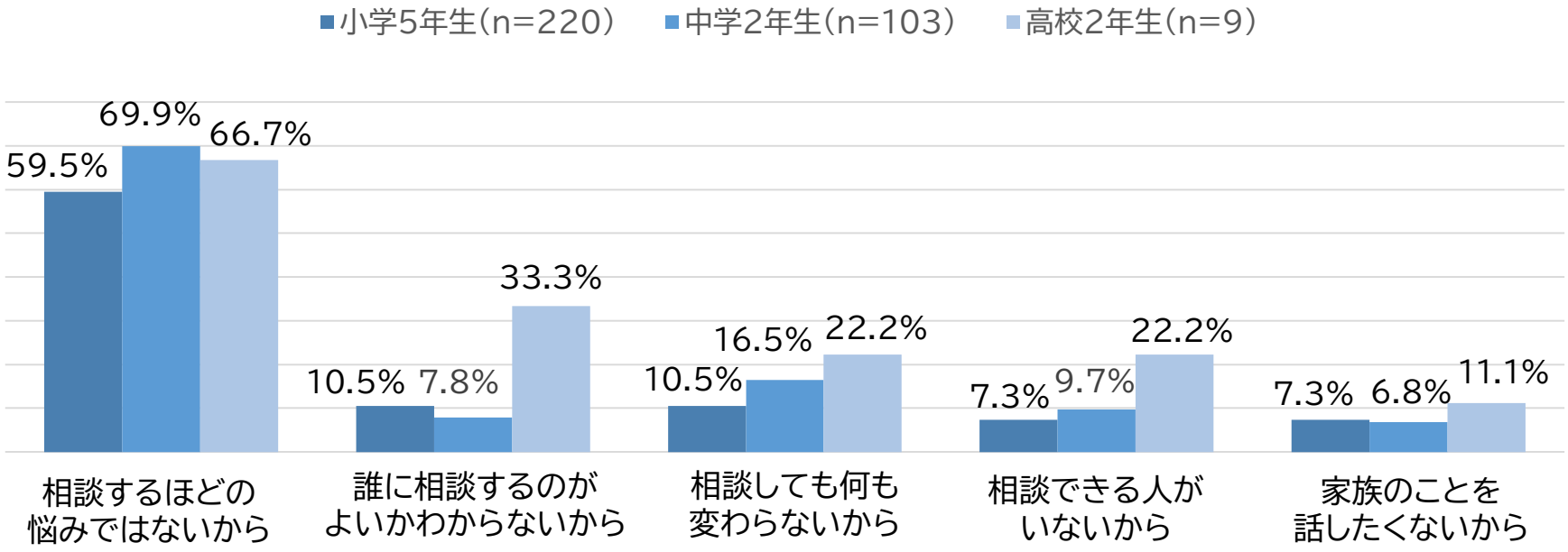
高校2年生
（n=23 ）



世話について相談したことがない理由
（対象：家族の世話をしており、自分をヤングケアラーだと思う子ども）

いずれの学年も「誰かに相談するほどの悩みではない」との回答が最も高く、「誰に相談するのがよいかわからないから」「相談しても何も変わらないから」といった回答も見られる。

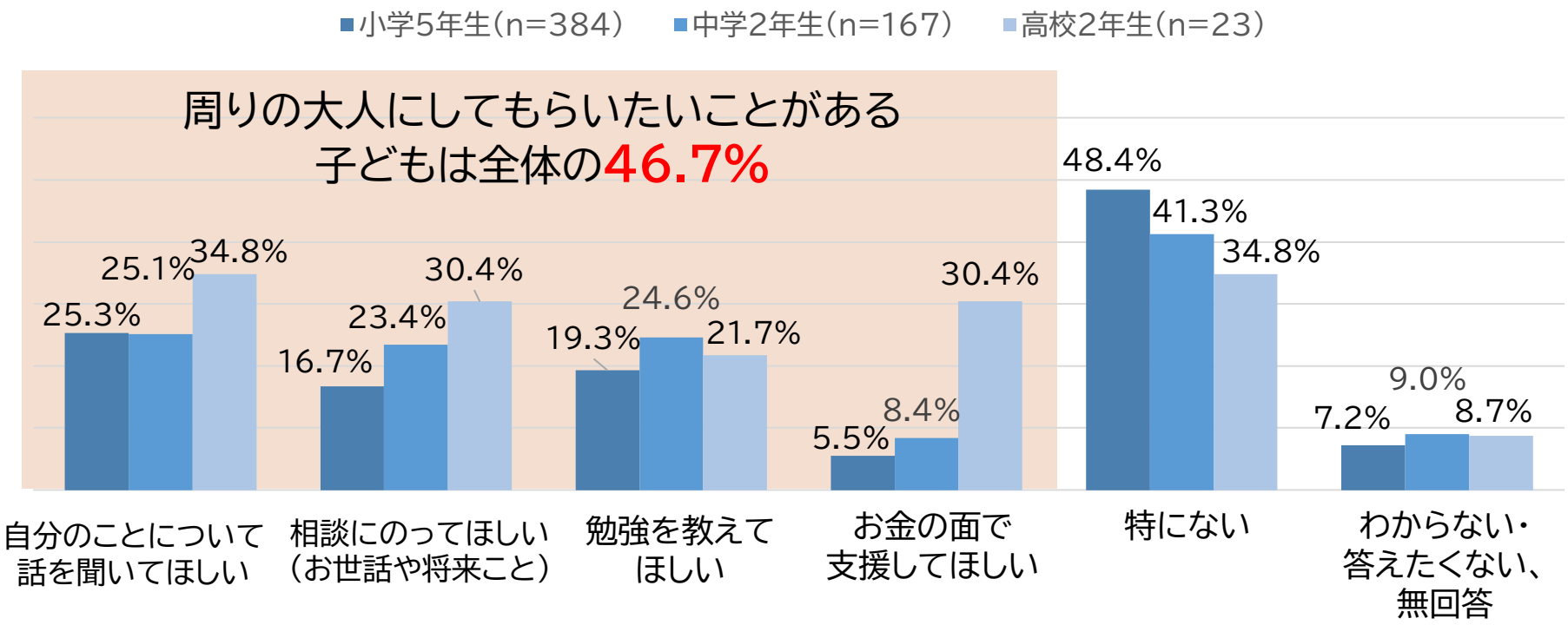
お世話について相談したことがない理由を教えてください（複数回答）



周りの大人にしてもらいたいこと
（対象：家族の世話をしており、自分をヤングケアラーだと思う子ども）

子どもの約半数が、周囲の大人に対し、「自分のことについて話をきいてほしい」「勉強を教えてほしい」など、してもらいたいことが「ある」と回答している。

あなたは周りの大人にしてもらいたいことはありますか（複数回答）

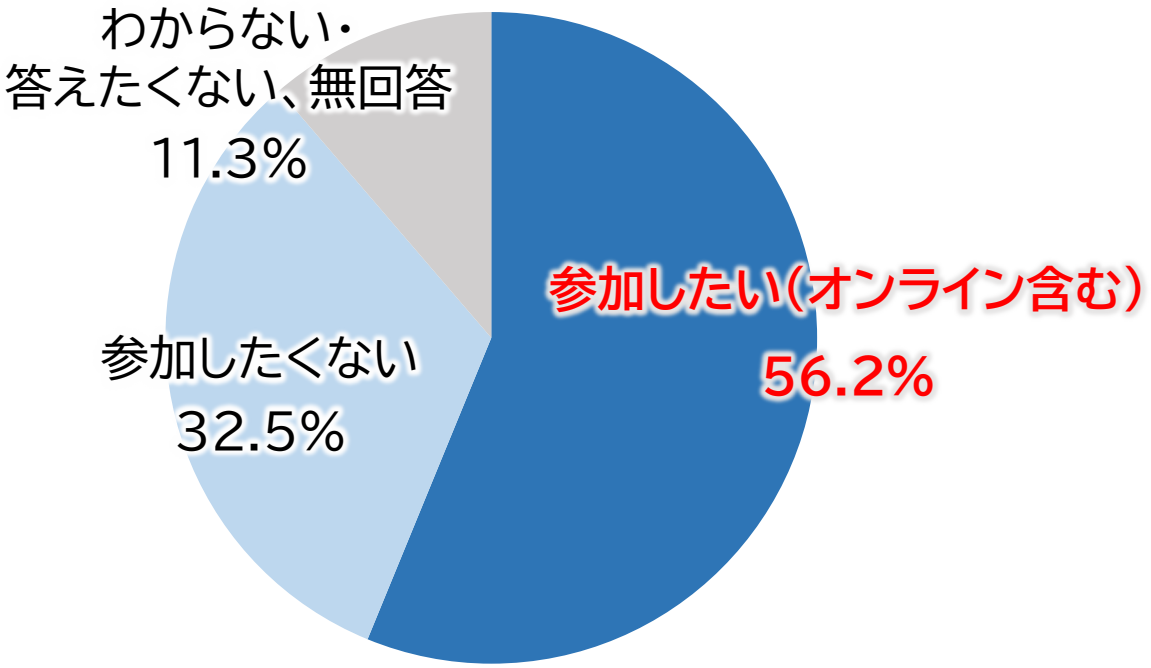


お互いの話をしたり、共有し合う場への参加意向

（対象：家族の世話をしており、自分をヤングケアラーだと思う子どものうち、周りの大人にしてもらいたいこととして、「自分のことについて話を聞いてほしい」「家族の世話について相談にのってほしい」と回答した子ども）

子どもの半数以上が、お互いの話をしたり、共有し合う場に参加したいと回答している。

家族のお世話をしている子どもたちが集まってお互いの話をしたり、
悩みを共有し合う場があれば参加したいと思いますか
3学年合計（n＝166 ）



調査結果から見えてきたもの

① 家庭が抱える様々な課題

② 潜在化する傾向

③ 生活への影響と周りの大人に望むこと

① 家庭が抱える様々な課題

幼いきょうだいや高齢の祖父母、障害のある家族など、世話を担う子どもが直面している家庭の課題は様々であり、中には複数の課題を抱えている場合もあります。

子どもや家庭の状況を総合的にアセスメントしながら、適切な福祉サービス等につなげていけるよう、**学校、区役所等の関係機関の体制・連携強化**により、支援を進めていきます。

調査結果から見えてきたもの

② 潜在化する傾向

誰かに相談するほどの悩みではない、相談相手がいない・わからない等の理由で、相談経験がない子どもが多く見られます。また、ヤングケアラーという言葉の認知度も高いとは言えない状況です。

子ども本人や周囲の大人に対する広報・啓発を更に推進し、ヤングケアラーの正しい理解を深め、子どもたちが声を上げやすくするとともに、地域全体で子どもたちを見守り、支える環境づくりを進めていきます。

③ 生活への影響と周りの大人に望むこと

勉強や睡眠、部活動等の時間が十分に取れないといった影響が見られます。また、周囲の大人に対しては、お世話や将来のことについての相談支援や、学習面のサポートなどが求められています。

子どもたちが自分の時間を確保できるよう、**身体的な負担を軽減するとともに、悩み相談等の心理的なサポートを行う取組**を推進していきます。